

<国際会議報告>

ANS 2013 Winter Meeting に参加して

名古屋大学大学院 工学研究科 マテリアル理工学専攻
博士前期課程一年 塩澤武司

2013年11月10日から14日の間にアメリカ・ワシントンD.C.で開催された米国原子力学会のWinter Meetingに参加する機会を頂いた。自身にとって初の英語による発表というだけではなく、初めての国外訪問ということもあって、事前の準備から大変であった。パスポートやクレジットカード、ESTA、ホテルや航空券の予約など、研究室の方々に手伝っていたきながら、なんとか準備することができた。

成田から直行便で約12時間、アメリカ・ワシントンダレス国際空港に到着した。ワシントン近郊には3つの空港があるが、この空港はダウンタウンから西に40km程度離れた郊外に位置している。到着してすぐにタクシーに乗車したが、ダウンタウンに通じる道は日本の高速道路よりも断然広く、車線も多い。当然走る車も皆飛ばしており、スケールの違いに驚いた。会議の2日前に到着したため、時差ぼけに慣れると同時に観光も楽しむことができた。余談ではあるが、私は大の飛行機マニア（特に軍用機）であるため、ファンにとっては聖地ともいうべきスミソニアン航空宇宙博物館を訪れることができ、感無量であった。ちなみに航空博物館は、ダレス空港の隣とダウンタウンの2箇所に分かれているが、個人的にはダレス空港の隣、「ウドバー・ヘジーセンター」の方が純粋に展示してある航空機を楽しむという点でオススメである。なお、同行した研究室の同期は私のテンションの上がり具合に辟易していたらしく、大変申し訳なく思っている。

話が大幅に脱線したが、会議の方はオムニ・ショアハムという高級ホテルで行われた。到着してすぐにオープニングセッションが始まったが、会場の広さや照明、雰囲気など、映画のワンシーンのようであり圧倒されそうになる。ここでスピーチされた方々のお話を聞くと、アメリカにおける原子力の状況が少し見えてくる。シェールガス革命による老朽原発の廃炉、小型新型炉の開発、核セキュリティの問題など、アメリカでも原子力がある種の転換点を迎えていると感じた。また、福島第一原発の事故の教訓・対応についての関心も当然高く、我々が日本人だとわかると、原発事故に対する自身の考えを披露してくれる研究者の方もいらっしまった。その方は冗談か本気か、以下のようなことをおっしゃった。「水を入れるから臨界性がどうかという話になる。ドライアイスを放り込めばいいのさ!」とにかく、日本のことを気に掛けてくださることは嬉しかったし、自分も頑張らなければいけないな、と感じた次第である。

さて、私の研究発表についてであるが、本会議の最初のセッションで行われることになっており少し困っていた。前のセッションを見て雰囲気や準備の様子を観察しよう・・・といったことができないからである。当然知り合いも周囲におらず心細かったが、座長の先生や会場系の学生の方に話しかけ、一応の準備は整えることができた。会場はそこまで広くは無

かったが、30名程度の聴講者がおり、さすがに緊張した。しかし発表自体は、事前の練習の甲斐もあり滞りなく進められたと思う。残念ながら会場から質問などは無く、上手く伝わらなかったかと思っていたが、同席して下さった先生と同期によれば、皆頷きながら聞いて下さっていたということであった。また、休憩時にロスアラモスの研究者の方から発表に関していろいろとコメントをいただき、一応伝わっていたことは確認できた。英語がもう少しできれば、その方と有意義なディスカッションができたのだが、話を聞くだけで精一杯になってしまったことが悔やまれる。

その後数日間は発表の緊張からも解放され、他の研究者の方々の発表に集中することができた。私が聴講した炉物理の分野では、中国や韓国の方の発表が多く、特に新たなモンテカルロコードの開発に力を入れているようであった。また、全体的に小型モジュール炉の解析や不確かさの定量評価及び低減手法に関する発表が関心を集めており、現在の炉物理研究のトレンドのようなものを感じることができた。惜しむらくは、私の英語能力不足で興味深い発表があってもはっきり理解できなかったことである。もう少しリスニング能力があれば本会議をより楽しむことができたと思うので、この点は今後の課題である。

最後に、今回、このような形で海外発表の貴重な機会を与えて下さった研究室の先生方と、発表及び渡航準備を手伝って下さった研究室の皆様、誠にありがとうございました。また、現地でお世話になりました先生方並びに企業の方々に感謝の意を申し上げます。



写真1 ワシントン記念塔は工事中・・・



写真2 ウドバーヘジーセンターのSR-71



写真3 数ある発表会場のうちのひとつ (私が発表した場所とは異なります)